

アートマネジメント

研修プログラム 2017

この研修プログラムは、レクチャーやディスカッション等を通して、芸術文化にかかわる状況や物事を複合的に捉え、作品やアーティストを社会へとつなげていく人材を育成することを目的としています。

平成29年度は、特にコミュニティとの連携が必須となる、アートプロジェクトを中心に研修を行います。プロジェクトに取り組むための基礎的な知識を身につけ、プロジェクトを企画し実施することについて、根本から課題を考え、多角的に問題を把握し、地道に思考する力を培うことを目指します。

A プログラムA 概論

1月15日(月) 18:00 ~ 21:00 会場：京都芸術センター

「アートプロジェクトと、状況と方法の多様性」

新しく変わった文化芸術基本法では、しきりに芸術の「活用」が語られます。しかし、アートプロジェクトは何かを何かを一方向的に「活用」することだけではなく、相互に関係し合う場が生まれることがあります。さらにそこには、そうすることでしか生まれ得なかった芸術の現在の可能性が照射されているのではないのでしょうか。今回はそのような問題意識から、アートプロジェクトについて歴史の変遷やその位置づけについて考えます。また、障害のある人の表現活動などをケーススタディとして、芸術を「活用」する文化政策の射程についても考えたいと思います。

B プログラムB 批評

1月16日(火) 18:00 ~ 21:00 会場：京都芸術センター

「『地域アート』の問題提起と、その問題提起はなぜ通じないのか」

現代の日本では、地域や社会と関与するタイプの芸術がたくさん催されるようになってきます。ぼくはそれを「地域アート」と名指し、なんとか批評の対象にしようと試みてきました。皆さんもおそらくは関わってこられたであろう「地域アート」について、美的・芸術的価値を判断する際に、どのような言葉や、どのような基準、どのような理論が使えますでしょうか？ あるいは既存のものでは足りないのであれば、どのように作り出せるでしょうか？ 皆さんと一緒に考えてみられたらと思います。

C プログラムC 地域課題

1月17日(水) 18:00 ~ 21:00 会場：ゲストハウスとカフェと庭 ココルーム (大阪市西成区太子2-3-3)

※オプションプログラム C-op1 17日(水) 14:00 ~ 17:00 C-op2 18日(木) 10:00 ~ 13:00

「地域のひとと、アートで課題を解決するなんて本当にできるのか」

- 地域とアートの関係を考える
- 多様なセクターと関わりながら、「表現」をてばなさず、取り組むことの可能性
- ホームレスやボーダー、ヤク物、貧困など、一筋縄でいかないことと「表現」と「場」のありかた。関わるとはどういうことか。具体的にはどうするのか、を考える
- つづけること、をどう考えるか
- ホームレスの方におむすびをつくって声をかける「夜回り」体験(17日 21:00頃まで)
- スタッフとの意見交換など通じて、人との関わり方を再考する

※プログラムCはop1、op2と併せての参加を特に推奨します。op1ではプログラムCのための準備、op2ではプログラムCをふまえたディスカッションを行います。希望者は「ゲストハウスとカフェと庭 ココルーム」に宿泊も可能です。(宿泊費は参加者負担：料金シングル3,500円～、ドミトリー 2,500円～)

研修テーマ 失敗するアートプロジェクト

アートプロジェクトは、展示会場やメディアに固定されたものではなく、計画そのものが地域性やコミュニティの現在の課題と結びついているものです。そのため実施には繊細な交渉や調整と、長期的な計画を要します。にもかかわらず、数値や造作物など、見た目にはっきりとした普遍性ある成果を提出できるとは限らないため、「成功」を実感しづらいものでもあります。しかし、こうしたプロジェクトの「成功」とはそもそも、一体どういうものなのでしょう？ この研修では、立場の違う複数の専門家を招き、事例を参照しながらプロジェクトが陥りやすい「失敗」について考察します。具体的な現場における困難をつぶさに見ていくことで、プロジェクトをよりよく進めるアイデアを発見していきます。

ゲスト 長津結一郎



1985年北海道生まれ。九州大学大学院芸術工学研究院助教、附属ソーシャルアートラボコメンサー、NPO法人多様性と境界に関する対話と表現の研究所代表理事。東京藝術大学大学院修士、博士(学術)。異なる立場や背景をもつ人々同士の協働と、そこにあるアートの役割について探求している。近刊に「舞台の上の障害者」(九州大学出版会)、共編に「アートプロジェクト：芸術と共創する社会」(水曜社)、共著に「文化経済学：軌跡と展望」(ミネルヴァ書房)など。これまでの企画に「東京迂回路研究」などがある。

ゲスト 藤田直哉



1983年札幌生まれ、東京在住。批評家。東京工業大学大学院社会理工学研究科修士、博士(学術)。現在、和光大学、女子美術大学ほかで非常勤講師を務める。著書に「地域アート 美学／制度／日本」(堀之内出版)「新世紀ゾンビ論」(筑摩書房)「シン・ゴジラ論」(虚構内存在 簡井康隆と(新しい(生)の次元) (作品社)などがある。サブカルチャーから、純文学、現代美術まで横断的に論じている。

ゲスト 上田假奈代



3歳より詩作、17歳から朗読をはじめる。2001年「詩家宣言」のち、さまざまなワークショップメソッドを開発し、全国で活動。03年新世界フェスティバルゲートで、ココルームをたちあげ社会と表現の関わりをさぐる。08年から西成区通称・釜ヶ崎で「インフォショップ・カフェ ココルーム」09年向かいに「イカマン!メディアセンター」開設。16年春移転し「ゲストハウスとカフェと庭 ココルーム」を開く。「ヨコハマトリエンナーレ2014」に釜ヶ崎芸術大学として参加。NPO法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)代表。大阪府立大学都市研究プラザ研究員。2014年度 文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞。
www.cocoroom.org www.kanayo-net.com

D プログラムD 芸術祭

1月18日(木) 18:00 ~ 21:00 会場：京都芸術センター

「別府と鳥取と東京と、それぞれのアートの必要性」

これまで国内各地でアートプロジェクトに携わってきました。今回は、「失敗するアートプロジェクト」ということで、私自身の失敗経験も踏まえつつ参加者のみなさんと共にアートプロジェクトの運営について学びを深めます。現場は生き物であり、必ずしも前例を参考にすれば全てのことに対処できるわけではありません。しかし、それでも他者の失敗を通して自身の活動を見つめなおすことで、同じ失敗を未然に防ぐことができるはず。そしてなにより、トーマス・エジソンが失敗を「うまくいかない方法の発見」と述べたように、「失敗」という貴重な発見を活用し受講者自身のプロジェクトをより良くする方法を考えていきましょう。

E プログラムE 観光

1月19日(金) 14:00 ~ 17:00 (プログラムE-1) 会場：京都市内 **18:00 ~ 21:00** (プログラムE-2) 会場：京都芸術センター

「観光とアートはなぜ混ぜるな危険みたいになっているのかと、実際に歩いてみる」

観光にもいろんな観光があります。マス・ツーリズムもあれば、コミュニティ・ツーリズムもあれば、より哲学的で宗教的で演劇的でアートのオルタナティブ・ツーリズムもあります。観光家・陸奥賢は、無目的にさすらう「逍遙観光」や、死者と生者が出逢う「死生観光」、異類を供養して食べる「異類観光」など、さまざまな社会実験プロジェクトを提唱・実践しています。観光側から見たアートプロジェクトの問題点や可能性について考えたいと思います。

※E-1は京都市内の街あるき、E-2は屋内でのワークショップを予定。E-1の集合場所は参加者に別途お知らせします。

F プログラムF 実践

1月20日(土) 11:00 ~ 17:00 会場：京都芸術センター

「アートプロジェクトの矛盾と、どう付き合っていけばいいのか」 —人生ガンブラ編—

今回は、人生ガンブラを作ります。人生ガンブラとは、自分の人生のさまざまなエピソードを元にガンダムのプラモデルを改造し、自分の人生の碑としてガンブラ制作をしていくものです。アートプロジェクトの醍醐味の一つは、社会の様々な世界の制度や仕組み、課題に対して、個人と他者という切り口で捉え直しを創造的に行なっていくことだと思います。アートプロジェクトを自分の内側から展開していくために人生ガンブラを作っていきたいと思います。

※材料費実費(ガンブラ代500~3,000円程度、金額は参加者と相談の上個別に決定)が必要です。

参加を希望の方は、申込書に記入の上、2017年12月17日(日)までに郵送またはE-mailにてお申込みください。

※申込多数の場合は選考を行います(通し参加、複数回受講を優先)。※参加通知については、2017年12月下旬に電話またはE-mailにてご連絡します。

申し込み先・問合せ先

京都芸術センター

〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏町546-2

TEL: 075-213-1000 FAX: 075-213-1004

URL: http://www.kac.or.jp

E-mail: info@kac.or.jp

ゲスト 林曉甫



はやし あき お NPO法人インビジブル 理事長／マネージング・ディレクター、女子美術大学非常勤講師。立命館アジア太平洋大学アジア太平洋マネジメント学部卒業。卒業後、NPO法人BEPPU PROJECTにて公共空間や商業施設などを利用してアートプロジェクトを通じた地域活性化や観光振興に携わる。2015年にNPO法人インビジブルを設立し現職。別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界2012」事務局長(別府 2012)、鳥取藝住祭総合ディレクター(鳥取 2014,2015)六本木アートナイトプログラムディレクター(東京 2014-)、問ひ屋プロジェクトプロデューサー(高崎 2017-)。

ゲスト 陸奥賢

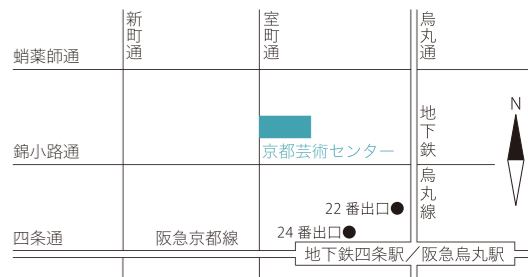


むつ さとし 1978年大阪生まれ。観光家／コモンズ・デザイナー／社会実行者。ライター、放送作家、リサーチャー等を経験。「固定化された世界観に意外な角度から光をあてて揺さぶる」をモットーに「大阪七墓巡り復活プロジェクト」「まわしよみ新聞」「直観読みブックメーカー」「当事者研究スゴロク」「歌垣風呂」「劇札」「仏笑い」「大阪モダン寺巡礼」などを手掛ける。とくに「まわしよみ新聞」は我が国最高の教育賞とも呼ばれる「読売教育賞」を受賞した。應典院寺町倶楽部執行部役員。著書に「まわしよみ新聞のすゝめ」。

ゲスト 深澤孝史



ふか さわ たか ふみ 1984年山梨県生まれ。美術家。場や歴史、そこに関わる人の特性に着目し、他者と共にある方法を模索するプロジェクトを全国各地で展開。2008年に鈴木一郎太とともにNPO法人クリエイティブサポートレッツにて「たけし文化センター」を企画。最近の主な活動として、漂着神の伝説が数多く残る町で、漂着廃棄物を現代の漂着神として記る神社を建立した《神話の続き》(奥能登国際芸術祭 2017)、埋もれた地域の歴史を現代に結びつけ直すことで、市民の主権と文化の獲得を目指す《常陸佐竹市》(茨城県北芸術祭 2016)、お金ではなく「とくいなこと」を預かり運用する《とくい銀行》(取手アートプロジェクトほか 2011-)など。



地下鉄烏丸線「四条駅」 阪急京都線「烏丸駅」 22番・24番出口より徒歩5分 駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

京都芸術センターウェブサイト <http://www.kac.or.jp/>

お問い合わせ 京都芸術センター TEL : 075-213-1000 / E-mail : info@kac.or.jp